



「つながる思い まちの絆」

ふるさとだより

2012年

12

月号
No.19

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

久之浜・大久

「たしかなる風」新しい久之浜の歌発表会
海岸堤防工事着工へ

四倉

震災をきっかけに故郷で夢を実現 KINKA
四倉小で学習発表会&夢先生が来校

平

鳴き砂海岸を後世へ 薄磯の鈴木さん
藤井さん感謝の気持ちでお裁縫

小名浜

桜から学ぶ命の大切さ 永崎小学校
震災を乗り越え営業再開 寿し割烹「鮨兼」

勿来

勿来町四沢 伊勢両宮神社(秋の例大祭)
関田地区海岸堤防 いよいよ工事着工へ

【写真背景】鮫川河川敷に白鳥(沼部町)



中央台高久の第一応急仮設住宅で行われた「こどもミニ縁日」では、主催の田園調布学園大学と目白大学の教職員や学生と交流しながら、住民らがクリスマスリースづくりに挑戦しました。



11月14日に行われた「がんばっぺ久之浜復興防火パレード」。揃いの法被(はっぴ)に身を包んだ久之浜第一幼稚園と平第一幼稚園の園児たちが参加しました。



いわき・ら・ら・ミュウで12月1日にクリスマスツリーの点灯式が行われました。小名浜白百合幼稚園の園児が「うさぎのはらのクリスマス」など3曲を歌ったあと、サンタクロースからご褒美をもらい満面の笑みを浮かべました。

震災の経験を

民生委員 吉田光子さん



市内そして県外での
競争

防災教育と ご近所付き合いの 大切さを実感

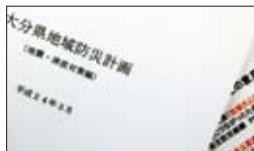
大切さを実感

—昨年3月11日、平から久之
沢へ戻る途中で地震。車の中

て、家へ帰ってからやるべきことを頭の中で整理していたので、冷静な行動ができました」と震災当时から現在に至るまでの話を久之浜・大久地区民生児童委員協議会副会長・吉田光子さんにお聞きしました。

紀伊半島で起きた地震と津波の話を聞かされ「地震の時、海の近くは津波が来るから逃げるのよ」と教えてきたそうです。非常時に備え家族で避難場所や避難方法などを話し合つてきました。そして、「老夫婦や寝たきりの方など隣組同士で声を掛け合い、まとまって16軒全員が無事久之浜中学校に避難できました。日ごろから家庭での防災教育や心の準備、隣組をはじめ、ご近所付き合いの大切さを実感しました」と吉田さん。

実例。東日本大震災を踏まえ改訂された、大分県地域防災計画に吉田さんの実体験からの意見が反映され取り入れられています。



吉田さんの実体験からの意見
が取り入れられている大分県
地域防災計画



詩吟や太極拳、地区のサークル活動にも積極的に参加しています

区長に聞く



南町区長
橋本 英延さん

震災時にがれき置き場となつていた町内の花壇に苗が植えられ、再び花が咲いています。震災前に100を超えていた世帯数は現在50未満。自治会の再建には、地区のみなさんとの協力が必要です。安心・安全・信頼の地域づくりに一番大切なキー・ワードは「向こう三軒両隣り」の精神だと思います。挨拶、声かけによつて住民同士のコミュニケーションが深まれば、地区の結束が強まり、笑顔のあふれるふるさとが戻ると思います。

避難生活を終え いわきに戻り

いわきに戻り

「私に何ができるかを考えた時、久之浜でみんなと一緒に活動することが大事だと思えたんです。若い人が久之浜に戻られるようにするには、私たち世代がちゃんと生活している姿を見せてあげなければ」という思いからいわきに戻り、今は泉町黒須野の雇用促進住宅で生活しています。

せじか



自分で掘り出す
たびに、大きさ
と数にびっくり

大根の収穫を行いました。収穫した野菜を使った料理も並べられた交流会には加納武夫石川町長も来賓として参加。参加者は久之浜と石川町、さらなる海と山の交流を誓い合つていました。

久一小児童 野菜の収穫体験

今年6月から、久之浜・大久
地域づくり協議会が行つてき
た石川町中田地区での農業休
験。11月5日、久之浜第一小学
校の2・3年生50名が石川町
を訪れ、さつまいもと大根の収

と中谷まちづくり委員会の水野勝男委員長。久之浜と石川町、子どもたちの未来へつなぐ交流がまた一つ始まりました。

農業体験 収穫祭と交流会

石川町中田里づくり委員会（瀬谷徳吉委員長）の協力で行われてきた農業体験。11月18日、又集会を行ひ、

海と山久之浜と石川町の交流

故郷への思いを胸に Uターンして夢を実現

押田さん兄弟



夢を叶えて店を開いた押田昇治郎さん(右)と将利さん(左)

二人は10月1日、いわき駅前の「夜明け市場」に和風居酒屋ダイニングへKINKAをオープンさせました。昇治郎さんはホール係、将利さんは厨房を担当して、店を切り盛りしていました。

社勤めをしていましたが、「いい」と反対されたものの、震災を契機に故郷いわきへの思いが大きくなつた二人は、Uターンして飲食店を経営することに。

「自分たちの店を持つて、人と人とのつながりの大切さを実感していく」と口をそろえるのは、四倉町出身の押田昇治郎さんと弟の将利さん。

当時、二人は東京に住んでいましたが、昇治郎さんは「父も落ち込んでいたし、弟といわきに戻ろう」という話になりました。弟が吉祥寺の飲食店で働いていて独立する夢を持つていたので、故郷で自分たちの店を持とうと思つた」と振り返ります。

個人事業主の大変さを知る父親からは「会社勤めをしていましたが、震災を契機に故郷いわきへの思いが大きくなつた二

人を、Uターンして飲食店を経営することに。

ています。

実家は四倉海岸の目の前で鮮魚店を営んで

くつろげる空間と旬の食材でおもてなし

「心を一つに みんなの笑顔を届けよう」をスローガンに11月10日に行われました。参加した314名の児童は、劇、ボディパーカッシュ、合奏、体育表現などを発表しました。

四倉小で行われました。実業団ラグビーで活躍する土肥健人さんや元Jリーガーらが同校を訪れて、児童たちと交流しました。

本のスポーツ界が一丸となる「スポーツプロジェクト」が、四倉小で行われました。同クラブは四倉公民館で3年前から始まり、四倉地区や平地区の子どもたち約15名が活動中です。体を動かす「ユースポーツやなわとびだけないわき市出身の土肥さんは、同プロジェクトの夢先生として、5年2組の児童たちと体育館でゲームをした後、教室でラグビーを始めたりきっかけなどを話し、「勉強でもスポーツでも何でもいいので、これだけは誰にも負けない、というところを見つけて欲しい。あきらめずに困難を乗り越えれば、きっと夢に近づけます」と、児童たちにエールを送りました。

震災の影響で公民館が使えず、活動が中断していた時期もありましたが、昨年11月から再開。指導する「福祉レクリエーション・ネットワークinふくしま」副代表の七海多美子さんは、「地域の枠を超えた仲間づくりや交流を通して、子どもたちの人間形成の手助けをしたい。お子さんの送迎に来る親御さんにも、ぜひ一緒に参加して欲しいですね」と呼びかけています。

地域の枠を超えた仲間づくりで人間形成をよつくら土曜日クラブ

夢先生が児童たちに激励のメッセージ



小学校生活を振り返る劇の後、ゆずの「栄光の架橋」を歌う6年生



十二支の劇で、動物たちに扮して演技する1年生

東日本大震災で被災したすべての子どもたちに激励のメッセージ



ゲームの作戦を練るために児童たちと話をす る土肥さん



七海多美子さんと子どもたち。毎月第2土曜日に活動しています

四倉掲示板

秋晴れの下、故郷を元気にウォーキング

海岸堤防と防災緑地の前出し案を提示

四倉17区と上仁井田北区を対象とした四倉地区復興事業計画の説明会が11月19、20日に開かれました。

住民意向調査の要望を踏まえて当初の計画を変更し、海岸堤防と防災緑地を現在の堤防の場所から砂浜側に前出しする案が示されました。

海岸堤防は高さ海拔7・2mとし、背後の防災緑地の高さは当初計画の海拔8・2mと幅については起点の境川からコメリ四倉店までが当初の計画どおりの50m、同店から四倉中学校までの比較的砂浜が狭い区間は30m、同中から終点部までは30mから14mであります付ける計画となっています。

前出しにともない、両事業は全て公有地で実施されることになります。防災緑地の樹木の種類や植栽方法は今後、近隣住民のみさんの生活に配慮して検討していきます。

海岸堤防は平成24年度中に設計、25年度から工事に入り、

防災緑地は設計を25年度上半期までに終えて、同下半期から工事を進める予定です。



晩秋の景色を眺めながらウォーキングする参加者。全員完走しました

参加者は、深まる秋を肌で感じながら、約8・3kmのコースを自分のペースで楽しんでいました。ゴールの大浦公民館では豚汁が振る舞われたほか、抽選会も行われて、番号が発表されるたびに会場には歓声と拍手が響きました。

とまとランド、長隆寺などを巡る「第10回大浦ふれあいウォーキング大会」は11月25日に行われ、地域住民ら約170名が参加しました。

大浦小学校をスタートしたクールで最優秀クラスに輝いた3年3組と同中吹奏樂部も特別出演してイベントを盛り上げました。

四倉中学校内の合唱コンクールで最優秀クラスに輝いた3年3組と同中吹奏樂部も特別出演してイベントを盛り上げました。



完成した漫画はどれも力作ぞろい。貴重な体験と出会いがあったしと塾でした

しごと塾の地域発表会お世話になつたみなさんへ感謝

わくわくしごと塾よつくり編(17号参照)の地域発表会が11月18日に開かれました。参



練習の成果を発揮して美しいハーモニーを響かせる、四倉おかあさんコーラス

したほか、体操サークルの発表では、来場者も一緒に体を動かしました。

児童も、北風を吹き飛ばすような元気いっぱいの踊りで、会場を盛り上げていました。

うつくしまYOSAKOIで四倉の踊り手たちも熱演

道の駅よつくり港の広場を舞台に、参加22団体の先陣を切つてよつくりYOSAKOI美舞蝶組が力強い演舞を披露しましたほか、大浦小学校4年生の

道の駅通信 今日も元気に営業中!

釜めし亭 心

会津地鶏の釜めしと海鮮日替わり釜めし(各600円)を提供しています。日替わりは月曜日のほたて釜めしから日曜日のうに釜めしまで。木曜日の海老プリ釜めしと金曜日のいか釜めしが新登場のメニューです。毎月のよかつペ市に合わせた限定釜めしもお見逃しなく。(スタッフの西山明子さん)

yotsukura 喜一

四倉復興のために喜多方ラーメン喜一の社長さんとの好意で、のれん分けされました。しょうゆラーメンと塩ラーメン(各500円・追加料金で大盛とチャーシューメンもあり)の定番メニューに加えて、塩ベースのラーメンに3ヵ月以上熟成させた辛味噌をのせた「赤魂」が仲間入り。冬にぴったりですよ。(店長の和田恭子さん)



昨年の学習発表会からよさこいに取り組んでいる大浦小の4年生たち



結成12年目を迎えた美舞蝶組は、貴禄の演舞を披露しました

豊間で鳴き砂イベント開催 「地元の海を守つていきたい」と鈴木さん

サーファーとして 社会貢献



海を見つめる鈴木さん。「豊間は全国レベルのサーフィン大会も行われたことがある場所。復興を期待したい」

「いわき鳴き砂を調べ・楽しむ会 in 豊間」(同実行委員会主催)が11月4日、豊間海岸で行われました。環境のバロメータとされる「鳴き砂」の分布状況や放射線量を調べ、海岸のごみ拾いに汗を流しました。海岸清掃の参加者の多くが地元のサーファーたち。その中の1人、サーフィン歴40年の鈴木孝史さん(平薄磯・59歳)に話を聞きました。

鈴木さんがサーフィンと出会ったのは20歳ごろ。70年代に青春時代を過ごし、自由を謳歌する若者のヒッピー文化の影響を受け、サーフィンを始めました。震災では家族を亡くし、自宅や店を津波で失い、避難生活を送りながら、がれき撤去や行方不明者の捜索にあけくれる日々。先が見えない生活の中、地元への感謝の気持ちを示すと、道路に散らばった釘などの危険物を拾い集める作業に勤められました。

周辺の環境に配慮し、仲間とともに1年間、被災した海岸でのサーフィンを自粛。3月末に再開させ、その後豊間に多くのサーファーが戻ってきましたが、それでも震災前の6~7割程度といいます。「放射能に対する感じ方、考え方は人それぞれかかるのではないか」。鳴き砂のイベントで測定した海岸の空間放射線量は毎時 $0.47 \sim 0.187 \mu\text{Sv}$ で、震災前の県の平均空間線量毎時 $0.038 \mu\text{Sv}$ に近づきつあります。鳴き砂も測定ポイントの3割弱で確認されました。

「震災後はいろいろな場所に行つたりもしたが、やっぱり地元の海がいい」という鈴木さん。魅力的な観光資源をふるさとのまちづくりにどう生かしていくか、今後も見守っています。

ウニ・アワビ漁の漁師の仕事

やサーフショップ経営のかたわら海に通い続ける日々。スポーツとしてサーフィンを楽しむだけでなく、全日本サーフィン連盟福島2区のメンバーとして自治会と連携しながら、海岸清掃など環境保全の取り組みや人命救助にかかる活動にも意欲を燃やしてきました。



11月4日に開かれた鳴き砂を体験するイベント。砂を踏むと「キュッキュツ」と音が鳴る現象に親しました

魅力的な 観光資源を将来へ

周辺の環境に配慮し、仲間とともに1年間、被災した海岸でのサーフィンを自粛。3月末に再開させ、その後豊間に多くのサーファーが戻ってきましたが、それでも震災前の6~7割程度といいます。「放射能に対する感じ方、考え方は人それぞれかかるのではないか」。



完成したサポートセンターの内部

ふるさと豊間復興協議会 サポートセンター完成・県の防災緑地実寸模型も

ふるさと豊間復興協議会(鈴木徳夫会長)が建設を進めてきたサポートセンターがこのほど完成しました。住民の生活再建や事業再開、健康、福祉などさまざまな相談を受け付けける予定。関係団体との連絡推進会議を開いて実施



豊間字塩場の駐車場内に県が設置した防災緑地実寸模型。説明会では「掲示板としても活用してほしい」とのこと

体制を整えたのち、これら各種事業をスタートさせます。

11月22日には、復興事業計画説明会を開き、災害公営住宅や防災緑地について市、県が説明しました。同協議会の電話が開通しました。

☎ 0246・98・6100

今後の学校運営を考える 地元の意見集約を



市教委主催の第3回豊間地区「学校のあり方」にかかわる意見交換会が11月20日、小学校体育館で行われました。地区の代表者と意見交換してきた内容をふまえ、一般公開で初めて実施。保護者ら約60名が出席しました。

市教委の案では中学校の運営に必要な施設を小学校に併設する形で整備し、緊急時には小学校の校舎3階に避難するという計画。これをたたき台に意見を交わしました。「中学校の設備も充実させ、なるべく独立した形で整備してほしい」「通学中の安全対策も考慮してほしい」といった意見が上がりました。

地元では小中学校のPTAが中心となって話し合いの場を設け、学校のあり方を検討、意見集約していくことになりました。市教委では今後も意見交換を続けていく計画。



小中学校の現状や今後の見通しを話す市教委の担当者

お知らせ

薄磯区 慰靈碑建立基金開設

薄磯区(志賀隆一郎区長)はこのほど、「慰靈碑建立基金」を開設しました。

区では数年後に震災の犠牲者を弔う慰靈碑を造る計画を立てています。

11月8日、(有)山六観光(鈴木一好代表取締役)が全国から訪れる観光客から寄せられた善意13万円を区に寄付。これを元金に基金を開設しました。

今後、区に寄せられた寄付金は基金に役立てられます。

薄磯区 復興に関する説明会

また、薄磯区は1月20日10:00～、豊間公民館で市、県の担当者を招いた復興に関する説明会を開きます。主な内容は25年度末の完成を目指している災害公営住宅や海岸堤防の事業計画などについて。

問い合わせは同区 ☎0246-39-4577

藤井のおばちゃん 感謝の気持ちを針に込めて

平豊間の藤井始子さんは手縫いのバッグや巾着を手作りし、友人・知人にプレゼントしています。

塩屋崎灯台に長く勤めていた藤井さん。接客の仕事を通じてたくさんの観光客と出会いました。今でも交流を続けています。飾らない性格で、豊間のサ



自宅の一室に設けた作品を飾るコーナー。背後の花嫁衣裳も大切な贈り物です

問い合わせは
携帯電話
090-2843-1793
まで

一ファーマーたちの間でも「藤井のおばちゃん」と親しまれています。震災では自宅を失い、洋向和裁の腕を生かして一つひとつ手縫いで丁寧に仕上げていきます。希望があれば無料で教室も開きたいとのこと。

「材料も豊富にあるので気軽に遊びにきてほしい」と話しています。

豊間婦人会(鈴木勝子会長)は11月14日、豊間南集会所でオーガニックコットンの種子を使った人形づくりに励みました。

NPO法人ザ・ピープル(吉田恵美子代表)は震災後の地域活性化策として、市内各地でオーガニックコットンを栽培するプロジェクトを開催。収穫された種子で「コットンベイブ」と呼ばれる人形を手作りし、クリスマスのギフト用に販売しています。1体約50個の種子ででき

ており、人形として飾つたあとは綿の中から種をとつて育てることもできます。婦人会は同法人の依頼を受け、人形を製作。会員18名が集まり、近況を報告しあいながら楽しく作業を進めました。予定より2時間以上

完成品は仕上げ、包装などを経てオーガニックコットンの輸入・商品の企画開発を行っており、手のひらサイズの愛らしい人形が約100個完

成しました。



完成した人形「コットンベイブ」

フォトギャラリー

2年ぶり! 豊間公民館祭り

11月3日(土)



復活した豊間の獅子舞



婦人会も朝から大わらわ。浜の味・ウニ飯や豚汁も大好評でした



浜菊会による「安波さまの唄」。会場のみなさんも懐かしく口ずさんでいました



公民館で活動を再開している絵手紙サークルの作品展



鈴木三和さんによる絵本の朗読

人形づくりに参加

婦人会



和気あいあいと作業を進めた婦人会のみなさん

完成品は仕上げ、包装などを経てオーガニックコットンの輸入・商品の企画開発を行っており、手のひらサイズの愛らしい人形が約100個完

成しました。

手がける東京都の株アバントに買い取られるほか、市小名浜地区復興支援ボランティアセンターなどで一部販売しています。1体840円(税込)。



来年の春にきれいな花が咲くようにと願いを込め植樹する斎藤みいなさん、勝倉校長、山田滉瑠(ひかる)君(左から)

安田女子高校は、爆心地から約2kmの距離にあり甚大な被害を受けました。終戦後、学校を再建した場所には数本の黒焦げになつた木がありました。その1本が、現在被爆桜と呼ばれているソメイヨシノで、黒焦げになりながらも翌年には満開の花を咲かせたのです。同校では、戦

復興への願いを込め ソメイヨシノを植樹

永崎小学校に広島県の安田女子高校から1本のソメイヨシノの苗木が贈られました。この苗木は、被爆しても芽吹いた木を接ぎ木したもの。67年経つた今も花を咲かせ続け、いつしか被爆桜と呼ばれるようになります。偶然にも昨年3月11日に接ぎ木されたものだといいます。

桜から命の大切さを学ぶ

永崎小学校

争の犠牲になりながらも花を咲かせる桜から命の大切さを学び、生きている

復興に繋がる 人と人との繋がりが



避難している子どもたちが心の絵地図を描いている様子を見守る酒主さん

ことの喜びを後世に伝えています。今回、4年前から接ぎ木を全国の学校へ贈つてきました。今回は、冷泉寺(古刹)の僧侶・酒主真希(さかねまき)さんを通じていわきの状況を聞いた広島密教青年会が橋渡し役となり、永崎小学校へ苗木が届けられました。

広島のように福島も復興してほしいとの願いを込め、10月29日に植樹式が行われました。児童代表の白石竜一君が「この桜にこれから明るい生活が送れることと感謝の気持ちを込めて大切に育てます」とお礼の言葉を述べました。

安田女子高校は、爆心地から約2kmの距離にあり甚大な被害を受けました。終戦後、学校を再建した場所には数本の黒焦げになつた木がありました。その1本が、現在被爆桜と呼ばれているソメイヨシノで、黒焦げになりながらも翌年には満開の花を咲かせたのです。同校では、戦

争の犠牲になりながらも花を咲かせる桜から命の大切さを学び、生きている

ことの喜びを後世に伝えています。今回、4年前から接ぎ木を全国の学校へ贈つてきました。今回は、冷泉寺(古刹)の僧侶・酒主真希(さかねまき)さんを通じていわきの状況を聞いた広島密教青年会が橋渡し役となり、永崎小学校へ苗木が届けられました。

復興に繋がる 人と人との繋がりが



避難している子どもたちが心の絵地図を描いている様子を見守る酒主さん

主真希さんは、同寺に届いた支援物資をボランティアで避難所や自宅に残つている人たちに届けていました。震災時同寺が避難所になつており、全国の寺院からたくさんの支援物資が届けられた。主真希さんは、「ボランティアを通して一緒に支えあいがもつと大切だと身にしみました。この活動がふるさと復興の助けになれば」と酒主さんは話します。

主真希さんは、同寺に届いた支援物資をボランティアで避難所や自宅に残つている人たちに届けていました。震災時同寺が避難所になつており、全国の寺院からたくさんの支援物資が届けられた。主真希さんは、「ボランティアを通して一緒に支えあいがもつと大切だと身にしみました。この活動がふるさと復興の助けになれば」と酒主さんは話します。

しめ縄作りを 絶やさぬように

11月3日に江名諏訪神社で同神社、磐城国造神社(上神白)、根渡の代表(江名、折戸、上神白)約20名が参加し、しめ縄作りが行われました。



同じ太さに作るのが大変で、朝早くから夕方まで作業。わらを付け足しねじりながら編んでいきます



奉納されたしめ縄。鳥居に飾るもののは8mもの長さが必要

しめ縄作りを 絶やさぬように

江名諏訪神社

江名諏訪神社ではでき上がったしめ縄を18日に奉納。震災の影響もあり3年ぶりの奉納となりましたが、同神社の禰宜・江名守康さんは「今後は毎年奉納していただきたい」と話しました。

いわき海星高校 海洋練習船帰港 復旧工事もはじまり復興へまた1歩前進

いわき海星高校の海洋練習船「福島丸」が11月9日、海洋航海実習を終え小名浜港に帰港し、ハワイ沖で獲ったメバチマグロなど約5.6tが水揚げされました。この実習では、約2カ月にわたり海洋工学科2年生37名と専攻科海洋科1年生5名が操船技術などを学びながらマグロ漁を体験。「海での貴重な経験を今後の学校生活に役立てほしい」と澤尻京二校長は話します。水揚げされたマグロは小名浜機船底引網漁業協同組合に取引され、市内のスーパーで販売されました。

震災で甚大な被害を受けた同校。現在も校庭や体育館は使用できず、体育の授業などは小名浜高校の体育施設を借りて行っています。10月半ばから本格的に復旧工事がはじまり、校舎とグラウンドは来年3月に完成予定。体育館と柔道場はまもなく解体され建設工事に入る予定です。



自分たちが獲ったマグロの水揚げを見守る生徒たち



職員は「生徒たちのためにも1日も早く直ってほしい」と元の学校生活に戻れることを願っています

近年、しめ縄を作れる職人が減少しているため自分たちの手で日本古来の伝統を受け継ぎ守つていこうと、上神白の伊藤清太郎さんに教

わり作成。総代の方々は初めての作業に苦戦しながらも「自分たちの手でこういった伝統を繋げていきたい」と懸命に藁を編み縄を作りました。



同じ太さに作るのが大変で、朝早くから夕方まで作業。わらを付け足しねじりながら編んでいきます



奉納されたしめ縄。鳥居に飾るもののは8mもの長さが必要

子どもたちに元気を!! 心の復興を願う

11月17日、NPO法人PLAY FOR JAPAN主催の「絆ウォーキング＆クリーン」が行われました。

東京からのボランティアの方や磐城リトルリーグの子どもたちなど約80名が参加し、アクアマリンパークと富ヶ浦公園を清掃。

「AKIHABARAバックスステージpass」と「パイレーツオブ東京湾」のショーも行われ、参加した子どもたちは「普段できない経験ができるよかったです。とても楽しかった」と笑顔を見せました。



雨の中、一生懸命清掃に励む子どもたち



リトルリーグでは団員募集中!!みんなで楽しく野球をしましょう

11月9日、江名幼稚園（高木典子園長）で幼年消防クラブの結成式が行われました。市消防本部から法被、拍子木、ワッペンが交付されると、園児たちは早速法被を羽織り、年長そら組の全園児が元気良く宣誓。鈴木壽一小名浜消防署長が「誓いを守って火遊びをしないでください」と呼びかけると大きな声で「はい」と返事をしました。



旗を手に「火の用心、マッチ1本火事のもと」と防火呼びかけのパレードを行いました

江名港で出動式を行い消防救急車両10台が火の用心のぼりを掲げ、江名中之作、永崎、下神白の住宅街と海岸沿い約25kmにわたり火の用心を呼びかけました。

敬語で考える力、コミュニケーション能力の育成

江名中学校



2年3組の生徒は「OLたちの素顔」と題し、どんな場面で誰に対して敬語を使うかを考え劇を作成しました。

2年3組の生徒は「OLたちの素顔」と題し、どんな場面で誰に対して敬語を使うかを考え劇を作成しました。

授業は源氏物語を使い行されました。難しい敬語を楽しく学べるよう、事前に漫画であらすじを読み、どんな場面でなぜ敬語を使用するのか、グループごとに考え発表。尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いや本来敬語を使う理由などの説明もあり、正しい敬語の使い方を学びました。

江名中学校では11月21日に文化庁文化部国語課の国語調査官、鈴木仁也先生を講師に招き、敬語に関する授業および講演会を行いました。

小名浜トピックス No.8

震災を乗り越え営業再開 寿し割烹「鮨兼」

「この店で常連さんと話しているときが本当に楽しいんだ」と話すのは下神白の寿し割烹「鮨兼」のご主人、日向寺良幸さん。店名は父の兼武さんの名前にあやかりつけたそう。

良幸さんが現在の場所にお店を構えたのは、平成元年のこと。以前は神白のテナントで10年間営業していました。それから大震災までの23年間、店を一人で切り盛りしてきました。地震と津波で自宅と店は甚大な被害を受けましたが、店内に飾ってあった看板は落下せずに残りました。震災で亡くなった父が「頑張れ!」と背中を押してくれていると感じ、早期再開を決意。現在はお客様にいわきの魚を使った料理を出せるのを楽しみに、奥様のマキ子さんと二人三脚で頑張っています。

小名浜下神白字館ノ腰76-5
☎0246-54-2088

営業時間 11:00~21:00
木曜定休



おすすめは、ばらちらしセット。みそ汁、小付け2品、デザートがついて1,000円

まちの話題



■いわき・ら・ら・ミュウ

リニューアルから1周年を迎えるいわき・ら・ら・ミュウ。早期復興を祈願して「食」に関するイベントを11月24日、25日に開催しました。24日は海鮮しぐれ汁700食の大鍋振る舞い、25日には焼サンマ試食会や和太鼓演奏の披露があり会場は大勢のお客さんで賑わっていました。



■中之作復興祭朝市

- 日時 12月22日(土) 7:00~
- 会場 中之作魚港

組合加盟業者と協賛業者の加工品を直売します。

■江名諏訪神社「歳旦祭」

- 日時 平成25年1月1日(火) 0:00~
- 会場 江名諏訪神社境内

かじの葉会による甘酒の振る舞いがあります。

並んで冷えた体が芯まで温まる海鮮しぐれ汁。700杯の振る舞いも約1時間で終了してしまうほどの人気

がんばれ！磐農生！！

磐城農業高校の今

震災で甚大な被害を受け、仮校舎での学校生活を余儀なくされている磐城農業高校。現在、実習室や校舎などの解体作業が行われ、新校舎は平成25年7月頃から建設に着工する予定です。

しかしそんな状況のなかでも、今年9月と10月には東町のなこそ交流スペースで、「磐農ストア」を開き長蛇の列を作りました。また、11月からはシクラメンの販売を2年ぶりに再開しました。

農業活動を通して、地域との交流を深めている同校ですが、そのなかでも人気を集めるのが磐城農業高校の文化祭であ

息を合わせて、力いっぱい綱を引きました

決められた大きさの台に何人乗れるかを競う「華のステージ」では、各クラス乗り方に工夫を凝らしていました

ジャムや卵などの販売がされる

「磐農ストア」を聞き長蛇の列を作りました。また、11月からはシクラメンの販売を2年ぶりに再開しました。

農業活動を通して、地域との交流を深めている同校ですが、そのなかでも人気を集めるのが磐城農業高校の文化祭であ

3年B組による「白雪姫」をアレンジした創作劇。なんと王子様が馬！



先生方も協力して会場を盛り上げ、ステージ前には大勢の生徒が！

3日目



満面の笑顔で、ハイピース！心に残る磐農祭となりました



青年会のみなさんが担ぎ手となり、本神輿の渡御が行われました



艶やかな衣装に身を包み、華麗に笛を奏みました

伊勢両宮神社例大祭

平穏を祈願して「浦安の舞」初奉納

伊勢両宮神社で、2年に一度行われる「秋の例大祭」が実施されました。同神社は、震災の影響で本殿や拝殿の基礎が陥没。また、鳥居笠木が落下するなど甚大な被害を受けましたが、昨年6月から復旧工事が完了し、鳥居はコンクリート製から、硬質塩化ビニール製になりました。

復興祭を兼ねて執り行われた例大祭には、関田連合青年会のみなさんや神社関係者など、約160名が参加。祭典では神社の復興を記念して、勿来第二小学校6年の児童4名による「浦安の舞」が奉納されました。

およそ20kmにも及ぶ道のりを進む神輿渡御には、「白鳥」として勿来第二中学校野球部の13名のみなさんが参加。同校吹奏楽部の27名

が奏でる笛の音とともに、関田の町を練り歩き、また、子供会の児童によって繰り出された子どもも神輿も大盛況。地域住民が一体となつて、神社の平穏を祈願しました。

浦安の舞を奉納した丹野夏紀さん(12歳)、岡田涼子さん(12歳)、佐竹美笛(みつき)さん(10歳)、水野優香さん(10歳)

2日目 ステージ発表

一番の盛り上がりを見せたステージ発表。クラスや有志が企画した様々なパフォーマンスや、吹奏楽部による演奏会が行われました。

毎日積み重ねてきた練習の成果を發揮。全生徒が一丸となつて会場を盛り上げました。

3日目 収穫祭

1日目 競技大会

大会。競技は綱引きなど全部で9種目行われました。

それぞれのクラスで手作りした旗を大きく振りながら、全力でクラスメイトを応援する生徒の姿も。白熱した展開を見せるなか、優勝は3年C組が勝ち取りました。

ご馳走を思う存分堪能しながら、仲間と過ごした楽しいひととき。こうして3日間にわたって行われた磐農祭は、生徒一人ひとりの心にそれぞれの思い出を刻み、幕を閉じました。

いわきの伝統行事 「酉小屋」 開催予告

竹で作られた小屋と一緒に正月飾りを一斉に燃やし、今年の豊作と無病息災を祈願します。

日 時

平成25年1月7日(月)
20:00~21:00

場 所

火力発電所近くの鮫川河川敷

※正月飾りは、20:00までにお持ちください。

※甘酒の無料配布、味噌田楽の販売もあります。



現在の関田地区海岸堤防。いよいよ、復旧に向けて本格的に始動します

勿来地区市民文化祭2年ぶりの開催

11月11日、勿来市民会館大ホールで開催。民謡やフラダンス、合唱、舞踊など、合わせて約40の団体、およそ200名が、日々の活動の成果を披露しました。

会場には約300名の市民が来場。力のこもったすばらしい発表に、拍手が響きわたりました。



華麗なダンスの披露には、会場から大きな拍手が

11月11日、勿来市民会館大ホールで開催。民謡やフラダンス、合唱、舞踊など、合わせて約40の団体、およそ200名が、日々の活動の成果を披露しました。



美しい歌声に、耳を傾ける来場者

2日間でおよそ650名が来館。制作したみなさんには、来館者にそれぞれの思いがこもった作品を紹介していました。

芸能祭



美しい生け花に、思わずうつとり…



細部まで丁寧にあしらわれた、パッチワーク作品

文化展

10月27、28両日、植田公

民館で開催。絵画や書道、華道、手芸など、勿来地区で活動する約130名の作品が展示されました。

海岸堤防 工事着工

11月7日、関田地区海岸を

含む海岸災害復旧事業の合同

起工式が、久之浜地区海岸で

行われ、関田地区の海岸堤防

工事が着工しました。

今回の工事は、関田地区海

岸の総延長1,350mのう

ち用地取得が不要な748m

を対象にしたもので、年内に着

手前の詳細な測量を行い、年

明け以降本格的に堤防工事に

着手する予定です。堤防の高さ

は、これまでの海拔6.2mか

ら1m高い、海拔7.2mにか

さ上げ。そのほか、基礎の深さ

を1m以上確保した上で被覆

する、コンクリートを厚くする

などの内容で復旧が進められ

ます。

また、工事は27年度までの完了を予定しています。

なお、起工式の様子は、本誌の最終面をご覧ください。

元気いっぱい！なこそびと

困難を乗り越えて…届け続ける“音楽”

ロックバンドグループ「ガストロンズ」のボーカルを務める田子隆幸さん。岩間町にある自宅は津波で甚大な被害を受け、現在は火力発電所の社宅で生活しています。

当時、趣味である釣りをしに沖へと出していた田子さん。大きな揺れのあとに津波が押し寄せ、急いで近くの山に避難したそうです。また、近くにあったスタジオにも津波が襲い、ギターなどの楽器も浸水してしまいました。

しかし、そんな中でもバンド活動を続けようとした田子さん。昨年5月にバンドを再開し、それからも2、3ヶ月に1回、ライブハウスなどでコンサートを開いています。田子さんは「今後も続けられる限り続けていきたい」と意気込みを話しています。



大勢の観客を前に、堂々と歌う田子さん。これからもたくさんの人に歌を送り続けます



あま〜い香りと一緒に ケーキ屋さん来園

11月7日、汐見が丘幼稚園は、子どもたちの笑い声と甘い香りでいっぱいになりました。

東京で洋菓子店〈レ・スリール・ダンジュ〉を経営している、四倉町出身のパティシエ、木村勝司さんが震災後「自分にできることはないか」と故郷であるいわき市を訪問。同園に限らず、たくさんの子どもたちと一緒にお菓子を作り、笑顔を分け与えています。

くまとうさぎの形をしたメレンゲを、溶かしたチョコでコーティング。園児たちはそれに目や口をつけたり、トッピングをしたりと、お菓子作りを楽しんでいました。



チョコをたっぷりつけて…
目や鼻、口をつけて
カラフルにトッピング



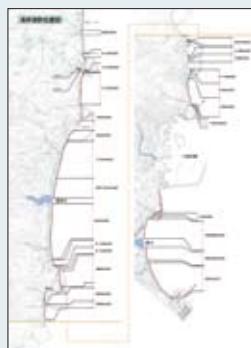
最後に木村さんが瞳を描いて、完成!みんな上手にできました

久之浜地区、関田地区的海岸堤防工事が着工

11月7日、久之浜地区と関田地区の海岸堤防工事着工における合同安全祈願祭及び起工式が、いわき市久之浜町久之浜海岸で行われました。建設事務所の宮崎所長は、「日本の復興はいわきから」を合言葉に一日でも早い復



工事関係者らがくわ入れをし、安全を祈願しました



海岸堤防の位置図
ふるさとだよりのブログで拡大して見れます

旧工事完了

を目指し、全力で取り組んで行きたい」と、今後の目標を話しました。

いわき建設事務所管内の海岸および港湾漁港部分の堤防復旧延長は、合わせて約27kmに渡り、総事業費は約253億円で整備されます。

今回、用地取得が不要だった久之浜、関田の2地区においては、県内で初めての復旧工事の着工となりました。津波により被害を受けた、市内他地区の堤防も今後、用地取得などの手続きを経え次第、順次工事に着手し、平成28年3月までの完成を予定しています。

なお、関連記事は本誌のP2、P10をご覧ください。

芋煮会で交流を深め合う 内郷雇用促進住宅

11月25日に、自治会主催の芋煮会が行われました。秋田県横手市の「やってみるヴエ味噌づくり実行委員会」の協力と「文京ボランティアグループ」の応援のもと、芋煮汁を作り住民のみなさんに振る舞いました。使った味噌は、今年



手作り味噌を使った芋煮汁には行列ができ、作るのが追いつかないほどの人気でした

3月に自治会のメンバーたちが秋田に行き、一緒に味噌づくりをしたときのもの。味噌は芋煮汁のほか、1世帯につき1kgずつ配されました。

また、千葉県から参加したジャズバンドと合唱団の演奏も披露されました。自治会長の大河内喜男さんは、「来年も開催し、交流を深め合いたい」と話していました。

ふるさとからのお知らせ

久之浜・大久

- 浜風商店街年末年始大売出し
(12月23日~25年1月6日)

休業日のご案内

- 白土建設設計事務所および久之浜商工会
(12月29日~1月3日)
- あかもの屋・からすや食堂・てんぐや
(1月1日のみ)
- シューズショップさいとう・はたや(1月1日・2日)
- プラネットさとう・スガハラ理容
(1月1日~3日)
- 石井魚店(1月1日~6日)
- 星迺宮神社「だるま市」
(1月8日6:00~・星迺宮神社)

四 倉

- 仲町暮市
(12月26日11:00~14:00・仲町商栄会)
- ◇お正用品の販売や餅つきなどがあります。
- 四倉諏訪神社「元旦祈願祭」
(1月1日0:00~・四倉諏訪神社)

平

- NPOパワー・オブ・ジャパンクリスマスコンサート(12月22日13:30~・豊間小学校体育館)
- 豊間諏訪神社「元旦祭神事」
(1月1日6:00~・豊間諏訪神社)
- 薄磯区復興説明会
(1月20日10:00~・豊間公民館)

小名浜

- 中之作復興祭朝市
(12月22日7:00~・中之作漁港)
- 江名諏訪神社「歳旦祭」
(1月1日0:00~・江名諏訪神社)

勿 来

- 佐糠町「酉小屋」
(1月7日20:00~・常磐共同火力発電所近くの鮫川河川敷)
- ◇その年の豊作と無病息災を祈願して行われるいわきの伝統行事、鳥小屋。竹で作られた小屋と一緒に正月飾りを燃やします。
- ※正月飾りは20:00までにお持ちください。
- ※甘酒の無料配布、味噌田楽の販売もあります。

心のケアサロンがオープン!

ひなたぼっこ

平一町目の〈スカイストア〉内に11月8日、交流スペース「ひなたぼっこ」がオープンしました。主に被災者や被災者への支援活動を行っている人の憩いの場として開設しましたが、誰でも利用できます。介護師、保健師のスタッフが常駐しており、健康相談や血圧測定などを無料で受けられます。休憩場所や情報交換の場としても利用可能。店内では買い物やランチ(日替わり600円)も楽しめます。

運営責任者である福島県立医科大学看護学部の結城美智子教授は「買い物に来た方も気軽にお寄りください。ここを拠点とし、さまざまな活動ができるればと思っています」と話しています。

開催日:毎月第1・第2・第3週の木・金・土曜日(土曜日は主に支援活動を行っている人が対象。木・金曜日は誰でも利用できます)

時間:10:00~15:00

料金:無料

場所:いわき市平字一町目25

スカイストア内
(T-1ビル向かい側)



●問い合わせ先
080-4516-2477

約30名が入れるスペースとなっています。お茶やお菓子を食べながらお話ししましょう!

生活支援相談員からメッセージ 和心と輪心と話心を大切に

いわきのまちを「笑顔に!」
ボラセン
だより
No.8

震災から1年9ヵ月が過ぎました。今年も残すところあとわずかです。月日の経つの早いものですね。

テレビ等では、復興が順調に進んでいる報道がされていますが、実際に訪問活動をしていると、まだまだ支援を必要としている方がたくさんいるように思えます。

だから、私たち生活支援相談員は、和心・輪心・話心を大切にし、

日々の訪問活動に誇りを持ち励んでいきたいと思います!



プロフィール

氏名 會田 潔
担当地区 小名浜
星座 さそり座
血液型 O型

いわき市社会福祉協議会

いわき市復興支援ボランティアセンター

いわき市平字菱川町1番地の3

☎0246-38-6631

<http://iwakisaiagaivc.blog.fc2.com/>



携帯電話の方は右記のQRコードからアクセスできます。

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

●メールの方/furusato@asally.co.jp

●携帯電話からのメール

QRコードを読み取ってください。→

●FAXの方/☎0246-26-5157

●おたよりの方/下記編集室まで

いわきあいあいで情報発信中!!

いわきあいあい 検索



Click

いわき市 ふるさとだより 第19号

平成24年12月20日発行

●発行:いわき市

●編集:有限会社 いまあじゅ ふるさとだより編集室

●編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3

プリンセス・アイ1F

Tel & Fax: 0246-26-5157

Mail: furusato@asally.co.jp

<http://www.furusatodayori.com>